



あなたのスキルと経験を、
NPOで活かすために。

From
October,
2011
to February,
2012

スマートシニア

NPOチャレンジスクール★

報告書



2012年3月

特定非営利活動法人 **NPO** サポートセンター

Contents

カリキュラム概要	3
インターンシップ受け入れ団体	5
研修生プロフィール	6
研修生インターン報告	8

カリキュラム概要

日時	テーマ／講師
第1回 10月5日(水) 13:00-17:00	■NPO 概論 ・オリエンテーション ・NPO 概論、市民活動の歴史、NPO の社会的意義 講師:山岸秀雄(NPO サポートセンター 理事長) 
第2回 10月12日(水) 13:00-17:00	■NPO の組織運営 / NPO との関係づくり ・NPO の組織運営概論、資金の仕組み ・NPO に関わる心構え、コミュニケーション 講師:吉川理恵子(NPO サポートセンター 事務局長) 岡本達思(岡本事務所代表) 
第3回 10月14日(金) 13:00-17:00	■NPO の組織運営・経営の現場ヒアリング 講師:植田洋子(ファミリーハウス 理事・事務局長) 宇梶朋子(ICYE JAPAN 事務局長) 木村利信(自立支援センターむく 理事長) 佐藤留美(NPO birth 事務局長) 渡辺正幸(CFF ジャパン 事務局長)  
第4回 10月19日(水) 13:00-17:00	■ソーシャルメディアはじめの一步 ・「ソーシャルメディア」における双方向コミュニケーション ・Facebook アカウント作成・運用の実践 ・Twitter アカウント作成・運用の実践 講師:高澤暢(ストリートデザイン研究機構理事 / IT コンサルタント・コーディネーター) 
第5回 10月26日(水) 13:00-17:00	■ソーシャルメディア情報発信のやり方 ・1 週間ソーシャルメディアに触れた感想 ・Twitter を活用した情報発信の演習 ・オンラインコミュニケーションの心構え、諸注意 講師:高澤暢(ストリートデザイン研究機構理事 / IT コンサルタント・コーディネーター) 
第6回 11月1日(火) 13:00-17:00	■ソーシャルメディア活用団体のヒアリング① 講師: 小島美緒(エイズ孤児支援 NGO・PLAS 事務局長事務局長) 井出留美(セカンドハーベスト ジャパン 広報部長) 
第7回 11月2日(水) 13:00-17:00	■NPO の現場で活かせるソーシャルメディア活用 ・ソーシャルメディアを活用した最新海外事例の理解 ・NPO の現場でソーシャルメディアを活用する準備 講師:市川裕康(株式会社ソーシャルカンパニー 代表取締役 / ソーシャルメディアコンサルタント) 

日時	テーマ／講師
<p>第8回 11月8日(水) 13:00-17:00</p>	<p>■ソーシャルメディア活用団体のヒアリング② 講師： 森田夕紀(WE21 ジャパン 広報情報室) 井口健司、植原正太郎(日本ブラインドサッカー協会)</p> 
<p>第9回 11月16日(水) 13:00-17:00</p> <p>第10回・11回 11月21日(月)、 22(火) 13:00-17:00</p>	<p>■NPO 団体の課題とニーズ把握 ・インターン受け入れ団体紹介 & 交流会 ・ソーシャルメディア演習フォローアップ</p> <p>■NPO インターン・マッチング面談</p>   
<p>シニア×NPO インターンシップ 11月28日(水) ～1月31日(火)</p>	<p>■スマートシニア・NPO インターンシップ ・NPO 団体での現場実習</p> <p>■よろず相談会(12月・1月) ・現場で直面する課題についてディスカッション ・インターン実習終了後の今後の活動イメージ ・ソーシャルメディア活用の注意点</p> 
<p>第12回 2月1日(水) 13:00-17:00</p> <p>第13回 2月8日(水) 13:00-17:00</p>	<p>■報告会準備 ・発表資料作成</p> <p>■プログラム成果報告会 ・振り返り・発表資料作成 - これまでの経緯 - 研修参加の動機 - NPO に対する期待 / イメージ - 研修の感想 - NPO インターンシップについて - 今後、NPO や社会との関わり方についての具体的なイメージ</p>    

インターンシップ受け入れ団体

特定非営利活動法人

ICYE JAPAN

ICYEは加盟39カ国で青年交換プログラムを展開しているNPOです。海外でのボランティア活動、異文化交流から世界平和をもたらす相互理解のための活動を行っております。加盟国での社会活動・異文化交流プログラムは、国際協力や国際交流の分野それぞれで活躍できるボランティアプログラムです。

特定非営利活動法人

WE21 ジャパン

NPO サポートセンターは日本最初の民設民営のNPO支援組織として誕生して以来、アドボカシーと人材育成を活動の柱として、NPOによる新しい社会システムの構築を目指して活動を続けています。多様な市民社会の発展に向けた基盤整備を推進し、NPOによる新しい社会システムの構築を目指します。

特定非営利活動法人

NPO サポートセンター

NPO サポートセンターは日本最初の民設民営のNPO支援組織として誕生して以来、アドボカシーと人材育成を活動の柱として、NPOによる新しい社会システムの構築を目指して活動を続けています。多様な市民社会の発展に向けた基盤整備を推進し、NPOによる新しい社会システムの構築を目指します。

特定非営利活動法人

共存の森ネットワーク

昔は当たり前であった、自然と共に生きる暮らし。そのような暮らしの中で育まれてきた森を守り、利用する知恵や技、心を持つ人達の言葉に耳を傾け、次代を担う若者達と共に、日本人の暮らしを足元からみつめていきます。

公益社団法人

ケア・インターナショナル ジャパン

CAREは、貧困が克服され、人々が尊厳をもって安全に暮らすことのできる、希望に満ちた寛容で公正な世界を目指す。そして貧困の根絶に向けた世界的な動きの中で、グローバルな知見と起動力を発揮し、人々の尊厳に対する私たちの揺るぎない姿勢を、世界中の人々に認識されることを目指す。CAREの使命は、女性や女兒に焦点を当て、世界の最も貧しいコミュニティにおける個人や家庭を支援することにより、途上国の人々の自立を支援することである。

特定非営利活動法人

自立支援センターむく

障害者が地域で生活ができるように、住まいの場や就労の場、日中活動の場やヘルパーの派遣等を組み合わせて、地域生活支援をしています。対象は「身体障害者・知的障害者・精神障害者・児童(障害児)」です。学習塾の公文と契約をして、学習療法を取り入れたり、マイクロソフトと協力して、パソコンの製造もおこなっていて、今までにないタイプのNPO法人です。

特定非営利活動法人

新宿環境活動ネット

主として新宿並びにその関連地域が環境に配慮した快適な都市になることを願う人たちが、市民・事業者・行政の立場や専門分野を超えて情報交流するためのゆるやかなネットワーク運営事業を軸に、環境への配慮を推進する関連事業の実施を通じて、持続可能な社会実現に寄与することを目的とする。

特定非営利活動法人

セカンドハーベスト ジャパン

セカンドハーベスト ジャパンは、品質や期限が全く問題なく充分食べられるにもかかわらず、包装の不備や印字ミスなどにより、市場流通性がなくなってしまった食料品を食品メーカーなどから引き取り、それらを経済的に困窮状態にある方たちに再分配する「フードバンク活動」を始めた日本で最初の団体です。

認定NPO法人

ファミリーハウス

地方から治療のために上京する小児がん等、難病の子どもと家族が、治療の間、安心して安く、安全に滞在できる「ファミリーハウス」を運営。個人の篤志家などからの提供を受けて施設を開設し、現在では、企業が建設した施設の運営受託を含め、都内に11施設を運営している。

特定非営利活動法人

藤沢市市民活動推進連絡会

「つながる・支える・うごく」をキーワードに、藤沢市内で活動する市民活動団体が活動しやすい環境を作るための事業を行っています。事業内容の一つとして、「藤沢市市民活動推進センター」の管理運営をはじめ、かながわ相談ネットワークへの協力、特定高齢者生活支援事業等を行っています。

研修生プロフィール

受講生	経歴	インターン先
生田 光弘	市民セクターよこはまの実施する福祉関係の第三者評価調査員研修を受講したことが縁で、横浜の福祉ボランティア団体の事務作業を4年前より関わる。	藤沢市市民活動推進連絡会
小嶋 正人	大学卒業後。建築、不動産関係の会社に勤務。住宅ローン破たん者の競売を回避し、任意売却をサポートをするNPO法人を立ち上げる。	NPO サポートセンター
小野 良一	36年間勤務した会社では支店での営業業務、本社での営業管理・販売促進・総務人事業務、物流子会社での会社全体管理業務など幅広い分野の業務を担当。	ファミリーハウス
加藤 秀雄	電子部品メーカーにて主に有機機能性材料の開発、分析業務に従事。定年後、独立行政法人で有機薄膜太陽電池の開発業務を経験。	新宿環境活動ネット
里村 博行	広告代理店にてマーケスタッフ13年、営業13年、シンクタンク出向3年、人材開発5年従事。	ICYE JAPAN
高橋 ゆみ子	インテリアデコレーターとしてモデルハウスをプランニング。建築士の資格を取得し、建築設計デザイン事務所に勤務。その後、地域子ども館の館長を経験。	ケア・インターナショナル ジャパン
鶴田 紀恵子	イベントプランナー。数年前までベルギーの大学で勉強。フランス語の翻訳をはじめ、国境なき医師団や都庁の観光ボランティア等を経験。	ケア・インターナショナル ジャパン
豊沢 幸四郎	メーカーにてシステム関係のマネージャーとして、営業職、SE職等経験。退職後、2011年4月より社会起業大学にて中高生向け教育プログラムに参加。	ぱお
野原 峰夫	IT関係(ベンダーの営業や管理)で55歳まで勤務。	自立支援センターむく
福島 瑞郎	広告代理店に入社し、CFディレクター&プロデューサーを担当。40歳で退社し、神戸で広告会社を設立。飲料・食品・電化製品等、生活用品の広告制作に従事。	ファミリーハウス
普門 正一	印刷会社にてパッケージ事業部で営業を経験。退職後、創業サポートセンターの相談人を経験。	WE21 ジャパン
村上 介敏	建築、デザイン、美術の教育に長年関わる。手作業で作る物はほぼ何でも作れる技術を習得。	ケア・インターナショナル ジャパン
森下 かおる	グラフィックデザイン業務、日本語教師ボランティアを経験。	共存の森ネットワーク
柳沼 恵一	食品メーカーの医薬品事業部門にて抗生物質などの新薬開発・研究業務に従事し、4年間ニューヨーク駐在経験。帰国後に財団法人への出向を経て定年退職。	藤沢市市民活動推進連絡会
吉田 伸廣	情報処理機器製造業で34年間勤務。情報処理機器のハード及びソフト設計24年間、ISO品質マネジメント及びお客様相談センター管理業務10年間従事。	セカンドハーベスト ジャパン

研修生レポート





名前：生田 光弘

Twitter アカウント：@fukuIKUTA

Facebook：mmfuku51

NPO におけるソーシャルメディアの活用について

これまでの経緯

横浜市において福祉系NPO中間支援組織にてボランティア活動しています。

研修参加の動機

「地域」についての講座を受けている中で、NPO活動におけるソーシャルメディアの活用の重要性を感じ受講することにしました。

自分とNPOとの関わりに対する当初の期待 / イメージ

NPO法人で仕事がしたいという希望があり、情報収集してきました。NPO業界は、これから成長する新規事業分野が多岐にわたり、期待できる事業分野も多いと感じていました。

研修の感想

◆NPO 活動・団体のカリキュラムの理解度◆

NPO活動団体については、いろいろなジャンルの紹介が受けられたので参考になりました。紹介された団体の Facebook の活用について詳細な解説が受けられ、ソーシャルメディアの長所など有効活用について勉強できました。

◆ソーシャルメディア研修、活用した感想◆

私は、Facebook を活用するにあたって、どのような活用が有効かを考えていました。NPO活動における情報発信の重要性を考えると、「どのような情報」を「誰に」、「どうやって」発信するか。そこに Facebook の活用がどう役立つかを研修課題にしていました。Facebook について、今後に繋がる情報が多く勉強できたことが成果です。

NPO インターンシップについて

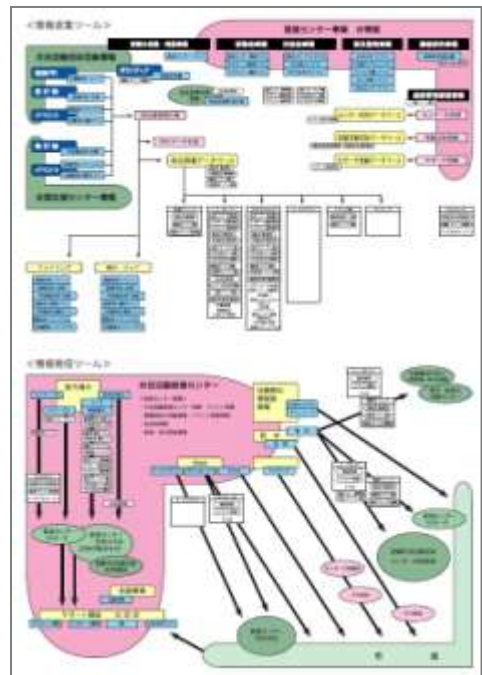
◆**インターン概要**◆ 団体名：藤沢市市民活動推進センター
インターン実習の達成目標

1. 推進センターの情報収集・発信の現状についての理解
2. 推進センターの Facebook 活用方法についての検討

◆**インターン活動(仕事)内容**◆

日常のフロア業務をしながらセンターに入ってくる情報の受付、入ってきた情報の処理などを行いました。入ってきた情報はデータベース化し、どのように情報発信しているか研修させていただきました。

推進センターを利用する人は、ミーティングのための会議室・フロアテーブルの利用、印刷機・コピー・パソコンの利用などいろいろでした。フロア業務は、来館者に対してこれらのサービスを提供すること。予約受付、問い合わせや、各種利用票の処理などが仕事でした。



情報収集・発信ツールの現状を整理

今後について

◆**NPO でのインターンシップを終えて、達成目標に対する自己評価、その他 感想**◆

推進センターの情報収集・発信については満足のいく研修ができました。推進センターにおける Facebook の活用方法については、方策の提案には至らず今後の課題となりました。

◆**今後において、NPO や社会との関わり方についての具体的なイメージ**◆

「まちづくりの中間支援組織」を立ち上げたいと考えています。その時、Facebook の活用は、不可欠になると考えています。



藤沢市市民活動推進センター



若いインターン生との交流



コーディネーターとの打ち合わせ

インターンコーディネーターからのメッセージ

藤沢市市民活動推進連絡会 桜井 光

まずは研修期間を無事終えられたこと、お喜び申し上げます。既に当センターでボランティアをされており、研修の課題設定に少し悩みましたが、本人の希望もあって、「センターにおける情報の受発信について理解」→「ソーシャルメディアとの連携を模索する」との課題を意見交換しながら詰めました。その過程で、日々バージョンアップされていく資料のレビューや実作業をこなし、理解を進めてもらい、それを基に Facebook ページの活用を考えて頂きました。情報収集力、理解力、資料に落とし込む力は、素晴らしいものをお持ちなので、今回の経験を活かして、より発信力を高め、今後の活動に繋げてほしいと思います。これからのご活躍お祈りしています。



名前：小嶋 正人

Twitter アカウント：@masatoojima

Facebook：masato.ojima

SNS はデフレ時代にピッチ

これまでの経緯

大学卒業後、設計事務所に就職。建築設計士の道をめざすも月給 6 万円、構造不況で設計事務所での仕事もなく、子供が生まれ生活できず設計士の道を断念。不動産業に転身して不動産会社を設立、ほどなく金融緩和の時流に乗り銀行、ノンバンクの借入れが多額になる。バブルが崩壊し借入している住専、銀行の保証会社の倒産などが続き、その債権が債権回収機構へ売却され、約定返済しているにも拘わらず強制競売される。残った借金の整理、返済に債権者、サービサーとの交渉、解決に約 20 年余の歳月を費す。金融政策により、ローンの支払い不能に始まり、競売、破産又は債務整理の一連の中で、債権処理の実態を知れば知るほど、疑問が生じ、今までの経験を生かして、誰にでも起こりうるローン破産を回避させ、債務者、債権者の両者の利益相反にならないよう活動するNPO法人を立ち上げる。

研修参加の動機

55歳を過ぎ子育ても終わり、第三の人生をどう生きるか。今までの仕事は正直まったく満足出来るものではありませんでした。ただ生活のためでした。これからは、まずは自分が満足する。それが仕事になればよい。そう決めました。紆余曲折、到達したところがNPOを立ち上げ、破産を回避させる任意売却をすすめる仕事をしようと決めたのです。その準備中、図書館でNPO、ホームページ、などの本を借りようとしていたところ、NPOサポートセンターのスマートシニアNPOチャレンジスクールのパンフレットが目にとまりました。NPO、ソーシャルネットまさに探しているものでした。

自分とNPOとの関わりに対する当初の期待 / イメージ

ボランティアの経験もないので、NPOとは何なのか、まずはその環境に身を置いてみよう。20年以上前、地域で活動する任意団体の人たちと会う機会があったのですが、決して印象の良いものではありませんでした。昔と違い、最近はマスコミ等で頻繁に取り上げられ、身近に感じられるようになりました。今後ますますメジャーになり、“価値観、考え方をかえる”。NPOがそのような役目を果たしてくれる、そのように期待しています。

研修の感想

◆NPO 活動・団体のカリキュラムの理解度◆

実際に数多くのNPO団体の活動状況、人的資源、資金調達方法など詳しく説明していただき、だいぶ踏み込んだ内容もあり、今後の活動に非常に参考になりました。ただ、個人的に興味のある活動団体（ローン破綻、住宅困窮者等に関連した活動）の参加が無かったのが少し残念です。

◆ソーシャルメディア研修、活用した感想◆

ツイッター、フェイスブックなどのソーシャルメディアの概要、そして実際に運用、基本的なところは出来たと思います。あとは実際に使いこなして上達する。ツイッター、フェイスブックなどのソーシャルメディア情報発信、極めれば費用対効果はものすごく期待できると思います。ソーシャルメディアは積層ビジネス。一つ一つ時間はかかるけれど確実に信用を積み重ね、フォロワーを増やしていく。デフレの時代にピタシです。



NPO インターンシップについて

◆インターン概要◆ 団体名：NPOサポートセンター

インターン実習の達成目標：ツイッターによるNPO関連の情報を発信することにより、フォロワーを増やす。

◆インターン活動(仕事)内容◆

ツイッターに情報を発信(ツイート)するアカウント(NPOサポートセンター情報発信局)をつくりNPOサポートセンターに郵送されてくるDMの助成金、セミナー等の情報をツイートする。また、グーグルアラートに登録して、リストアップされたものも行う。NPOの中間組織としてのNPOサポートセンターは、NPOの支援組織であり、必要とされる情報を発信し、皆様に認知して頂く。ツイッターはその業務の一翼を担うものであると理解しています。



今後について

◆NPOでのインターンシップを終えて、達成目標に対する自己評価、その他 感想◆

平成24年2月1日現在 ツイート118件、フォロワー712名、リツイートして頂いた人21人お気に入りに入れて頂いた人6人となっています。ツイッターは今後の活動において大いに利用していこうと思っています。2年3年先をみてコツコツ積み重ねて、5年後はどのようになっているのか楽しみです。“目標、夢への実現に向けて有効なツールである”。SNSは若者のだけのものではなく、シニアにはシニアの使い方、工夫しだいでは“今後の人生を大きく変える”“そのような可能性がある。そのチャンスに巡り合えた意味で満足しています。

◆今後において、NPOや社会との関わり方についての具体的なイメージ◆

NPO関係者の話には、人での苦勞、お金の苦勞、運営は決して生易しいものではない。それは随所に感じられました。100のNPOがあれば100の活動、考え、思いがあり決して同じものではなく、それぞれが自主存立、誇りを持って活動する。そういったNPO法人を確立していきたいと思っています。

インターンコーディネーターからのメッセージ

NPOサポートセンター 笠原孝弘

インターンありがとうございました！NPOサポートセンターに紙ベースで届く支援情報や、関係するNPO団体の情報を、オープンに共有したいと思っていましたが、全く手をけることができていませんでした。今回小嶋さんにソーシャルメディアの業務を担当いただいたことで、今まで届いていない方にも情報を共有できたと思います。2ヵ月間という短い期間でしたが、小嶋さんに築いていただいた情報発信スタイルを、これから始めるインターンやボランティアに引き継いでいきたいと思っています。小嶋さんご自身のNPO活動も応援しております！



名前：小野良一

Twitter アカウント：@RyouichiOno

Facebook：ryoichi.ono

～NPOを知る～

これまでの経緯

36年間勤務した会社を昨年5月末に定年退職し、定年後の次の「やりがい」を見つけるため、種々のセミナーに参加しています。会社では支店での営業業務、本社の営業管理・販売促進・総務・人事、及び物流子会社の経営等幅広い業務を行ってきました。

研修参加の動機

NPOについての興味・知識を深め、どうNPOと関わるかの方針を決めるため、今回の研修に参加しました。NPOについて全く知識がないため、NPOの活動実態やいろいろなNPO団体を知ることが大きな目的です。

自分とNPOとの関わりに対する当初の期待 / イメージ

研修終了後、シニアの再就職支援活動をしているNPOやその他のNPOにて、運営補佐、事務局補佐的な業務をボランティアという形で携わりたいと考えています。

研修の感想

◆NPO活動・団体のカリキュラムの理解度◆

NPOとは何か、組織運営、資金の仕組み等について教えていただき、NPOの活動全般に関して理解できました。またNPO5団体の方々の講演により、具体的なNPOの活動実態について知ることができ、たいへん参考になりました。インターンを希望したファミリーハウスもこの講演で説明された活動内容に感激したからです。

◆ソーシャルメディア研修、活用した感想◆

スクールで教えていただいてFacebook・Twitterを始めました。Facebookはグループ機能が優れていて、スクール参加者の皆さんとのコミュニケーションツールとしてたいへん役に立っています。また中学の同窓会メンバーでグループをつくり、連絡し合っています。

Twitterは情報収集ツールとして非常に優れていると思います。フォローしている方々の「つぶやき」を読んでいるとすごくいいことを言っていると思いますし、本の紹介やイベント・セミナーの案内等の貴重な情報が得られます。

NPO インターンシップについて

◆インターン概要◆ 団体名：ファミリーハウス

インターン実習の達成目標

1. ファミリーハウスの活動を知ること
2. 終了報告書「ファミリーハウスの今後の広報活動について」の提出

◆インターン活動(仕事)内容◆

活動の主体はハウスクリーニングです。都内にある10か所のハウスのうち6か所の施設で室内のクリーニングを行ないました。その他にはハウスマネージャー(管理責任者)の個人別日報まとめパソコン作業、アンケート用紙のカッター切断作業、「宿泊申込書兼誓約書」の特記事項欄及び管理者名欄にゴム印押印作業、花壇の雑草取り、ジャガイモの種芋植え作業等を行ないました。



今後について

◆NPOでのインターンシップを終えて、達成目標に対する自己評価、その他 感想◆

ファミリーハウスの活動内容、ハウスクリーニングのやり方、「利用者さん」に対するホスピタリティーのある接し方、「利用者さん」を出さないという広報の考え方等たいへん多くの事を教えていただき、所期の目的は達成できました。またインターン終了にあたり「ファミリーハウスの今後の広報活動について」報告書を提出しました。インターンは本当に貴重な体験ができた2ヶ月間でした。

◆今後において、NPOや社会との関わり方についての具体的なイメージ◆

ファミリーハウスの活動には今後とも、ボランティアや助成金に関するプロジェクト等を通じて参加していきます。またシニアの再就職支援活動を行っているNPOやその他のNPO活動にもインターン又はボランティアとして参加したいと考えています。

インターンコーディネーターからのメッセージ

認定NPO法人ファミリーハウス ハウスマネージャ 松谷真精

小野氏は、当団体の理念に興味を持って、ファミリーハウスのインターンに参加したとうかがいました。活動の内容はハウスの運営に関する日常作業、主に利用者が使用する部屋の掃除という裏方の仕事でした。これまでの生活の中ではやったことの無い分野にも関わらず、本当にまじめに一生懸命慣れない作業にご苦勞をいただきました。私たちの運営するハウスをほぼ全部まわられ、私たちの活動をまず受け入れてくださった姿勢に感服しました。今後の活躍を期待しております。



名前：加藤 秀雄

Twitter アカウント：@kato_hideo

Facebook：加藤秀雄

～NPO 活動で生物多様性の維持を模索～

これまでの経緯

趣味はテニス、山歩きで、大学が写真工学科出身ということもあり、カメラ歴は学生時代に遡ります。15 年程前に葛飾区の水元公園を散歩中、カワセミのコバルトブルーの体色に魅せられたのをきっかけに、野鳥の撮影をはじめました。その2年後には作品を水元ネイチャー写真展に出品し、現在も年1回の写真展には作品を発表しています。

研修参加の動機

東京都鳥獣保護員として活動し、また一昨年より、かつしか区民大学の自然“感”察指導員講座を受講し、子どもが自然の楽しさを五感で感じられるような指導方法を学んだほか、葛飾区の自然・環境レポーターとしても1998年から活動しています。今後は、NPO 活動に携わる中で自然・環境の分野を深耕していきたいと思えます。

自分と NPO との関わりに対する当初の期待 / イメージ

環境関連の NPO と一緒に絶滅危惧種の野鳥、昆虫、植物を保護して、生物多様性を維持することを模索したい。

研修の感想

◆NPO 活動・団体のカリキュラムの理解度◆

国際協力、福祉が主体で、環境関連は NPO birth と共存の森の2団体のカリキュラムがあった。後日、共存の森の「聞き書き甲子園」10周年記念シンポジウムに参加して、若い人達が自然を育てようとしている姿を見させていただきました。未来へ向かって私たちからの提案として、名人との出会い、地域との出会い、社会との出会いの想いが伝わる前向きなリレートークでした。また、エコプロダクツ2011に出展して、森を守る人々を若者が紹介していました。

◆ソーシャルメディア研修、活用した感想◆

多数の方に簡単に伝えられるということを知りました。私は野鳥撮影が趣味ですので、絶滅危惧種の野鳥達の保護の観点から生物多様性の維持をツブヤキました。自然・環境の大切さが伝われば幸いです。

NPO インターンシップについて

◆**インターン概要**◆ 団体名：NPO法人新宿環境活動ネット
インターン実習の達成目標

1. 新宿中央公園のふれあい通信の冊子の作成
2. 生物多様性の維持の模索



「お散歩隊が行く！新宿中央公園のふれあい通信」

◆インターン活動(仕事)内容◆

新宿中央公園の植物、野鳥、昆虫のふれあい通信を作成するにあたり、私の関連している葛飾区自然環境レポーターの自然環境調査報告書と水元ふれあいルーム通信を参考にした。中央公園ビオトープの会および中央公園自然クラブの方々と相談し、写真撮影と観察記録は順調に進んだ。幸い、新宿中央公園のふれあい通信の第一報が作成できました。東日本大震災写真展の展示の手伝いと受付、ランチタイムコンサートのチラシ作成、公園の掲示板にポスター貼りなどの事務処理も行いました。



今後について

◆NPOでのインターンシップを終えて、達成目標に対する自己評価、その他 感想◆

インターンシップで知り会えたNPO新宿環境活動ネット、NPO共存の森ネットワークの方々も一生懸命に自然学習活動されていることを学びました。また、エコプロダクツ2011展示会で企業の環境に対する意識、森を守る市民、トキを初め絶滅危惧種の生物多様性を守る人々がいることを認識できました。

◆今後において、NPOや社会との関わり方についての具体的なイメージ◆

地域の環境（エコ）はNPOの経験を加味し、従来以上に深みを増して継続していけると思います。かつしか市民大学、葛飾区自然・環境レポーターで地域の子どもたちに自然の楽しさを伝えていきたい。

インターンコーディネーターからのメッセージ

新宿環境活動ネット 落合千秋

加藤秀雄様は、様々な仕事をお手伝いいただき大変ありがたく思っております。なお、「お散歩隊が行く！新宿中央公園のふれあい通信」を作成していただき、今後の新宿中央公園の紹介ガイドの道しるべとなったと思います。これからも、これを何かの縁と思い、加藤様の地元の水元かわせみの里と色々連携できることを楽しみにしております。



名前：里村 博行

Twitter アカウント：(非公開)

Facebook：(非公開)

NPO との一期一会

これまでの経緯

勤務している財団の新規事業として、「非営利組織による大学生等を対象として取り組んでいる人材育成活動」に対する資金助成事業をスタートさせ、第一回目の募集を平成23年10月に行った。その関係で、NPOの事業運営上の課題などについて、実感として理解・共感する必要性を感じていた。

一方、ソーシャルメディアについても言葉としては新聞などで目に触れる機会が増えてきたが、その実態をまったく知らないままになっており、今更聞くに聞けない状況であった。

研修参加の動機

NPO学会のメーリングリストで、NPOOSCが「スマートシニア NPO チャレンジスクール」研修生の募集をしていることを知り、「この研修は私のための神様からの贈り物」と感じ、フルタイム勤務中の身でありながら、思い切って応募させていただいた。

自分とNPOとの関わりに対する当初の期待 / イメージ

上記のように、勤務先で新規事業を立ち上げる際の問題意識として、漠然としたイメージであったが、「閉塞した社会の雰囲気突破するためには第三のセクターであるNPOの活動がぜひとも必要であり、山積する社会課題解決のキーポイントをNPOが握っている。NPOとの連携に挑もう」と感じていた。

研修の感想

◆NPO活動・団体のカリキュラムの理解度◆

山岸理事長の講話などから、日本のNPOの今後の可能性には大いに期待できるものの、現状のNPOの経営上の問題点も山積している現実を理解できた。多くのNPO団体から事業内容についてのレクチャーを聞き、それぞれの現場で活躍するNPO代表者の志の高さには心から敬服した。

◆ソーシャルメディア研修、活用した感想◆

FACEBOOK・TWITTERの使い方などはもとより、ソーシャルメディアを広報メディアの一つとして活用する意味・価値などは私なりに理解できた。

感想は、FACEBOOKは、フォーマットがしっかりと構築されている発信者の写真付のメーリングリストで、TWITTERは縁遠い存在といった捉え方であったが・・・。



NPO インターンシップについて

◆インターン概要◆ 団体名：ICYE JAPAN

インターン実習の達成目標

1. 若い女性事務局長一人で奮闘しているインターン先でのアドバイザー役になる。
2. ボランティア目的で海外派遣を希望する若者の意識と実態の一端を把握したい。

◆インターン活動(仕事)内容◆

1. 資金助成申請書についてのアドバイス
2. パンフレット、ハンドブックなどの印刷物の内容チェック、校正作業
3. 資料請求者への資料送付作業
4. 大学関係へのポスター・パンフなどの封入・送付作業
5. 海外派遣生に対する説明会補助作業 *写真参照
6. 業務提携についてのアドバイス



今後について

◆NPO でのインターンシップを終えて、達成目標に対する自己評価、その他 感想◆

期間中 12 回程度、インターンシップを実施した。もともと先方から期待されていたアドバイザー役は、不十分ながらも果たせたのではないかと自己評価している。今回の出会いを今後も継続する心積もりをしている私にとっての「NPO との一期一会」は、大きな成果をあげたと考えている。

◆今後において、NPO や社会との関わり方についての具体的なイメージ◆

NPO への資金助成財団の事務局長としての様々な係わりを、あと 2~3 年程度続けた後(退職後)は、人材育成系の NPO でのインターンかボランティア、プロボノとしてサポートしていきたい。

インターンコーディネーターからのメッセージ

ICYEJAPAN 事務局長 宇梶朋子

このたびの出会いに感謝します。里村さんからいただいた一言一言が、ICYE の運営や私の人生の指針になりました。後半は忙しくなってしまう、ゆっくりお話を聞きできなかったのがとても残念。たった 10 日間ほどしかお会いしなかったとは思えないほど、近い存在になりました。今後も里村さんの存在を感じることで、より良い媒体作成、そしてより良い ICYEJAPAN の運営ができそうです。ありがとうございました。



名前：高橋 ゆみ子

Twitter アカウント：@yumikotakahashi

Facebook：yumiko.takaha

NPO インターンシップを経験して

これまでの経緯

20代半ばは、1年あまりインド、ネパール、スリランカ辺りを放浪していました。その後、広告代理店や建築設計デザイン事務所の勤務を経て、武蔵野市役所で10年間嘱託職員をしました。最初の5年間は、住宅対策課でイベントのポスター作成やまちづくりに関わるレポート・公文書作成業務等、幅広く経験しました。次の5年間は、「地域子ども館・あそべえ」の館長として勤務していました。学校施設等を利用した「あそべえ」は、異年齢の子どもたちが自由に集い、考え、交流できる遊び場です。ここでの経験は、今でもとても貴重なものとなっています。

研修参加の動機

私は、Photoshop や Illustrator を使ってチラシやポスターを作る事が好きで得意としている事です。それを生かして楽しく仕事ができる場所はないものかと考えているときに、NPO シニアチャレンジスクールのお知らせを見ました。NPO という言葉をよく見聞きする割には、よく知らないという事もあり、ここで、何か新しい出会いがあるかもしれないと思い参加しました。

自分とNPOとの関わりに対する当初の期待 / イメージ

イメージは、二つありました。一つは、団体のスタッフと一緒に企画を考え、チラシ制作、広報などで協力するというもの。もう一つは、お知らせ制作、広報のみで最初は協力しつつ、次第にその団体を理解するにつれ他の業務にも手伝う場所を見いだすというもの。

研修の感想

◆NPO 活動・団体のカリキュラムの理解度◆

行政だけでは、カバーできない分野をサポートする組織、自己実現度の高い新たな雇用の場としてのNPOは、今もこれからもますます必要とされるものだと思います。しかし、「片手にミッション、片手にそばん」という言葉が印象的だったのですが、単なるボランティア精神だけではなく、現実的な組織運営力が必要なのだという事が、理解できました。

◆ソーシャルメディア研修、活用した感想◆

この研修を受ける前は、mixi や Facebook は面倒くさい、パソコンに張り付いたままになりそうというイメージを持っていました。しかし、自分なりの時間ルールを作ってやってみると、そうでもない。自分の投稿に、誰かが応じてくれると素直にうれしい、人とのつながりに距離感がないと思いました。



NPO インターンシップについて

◆**インターン概要**◆ 団体名：公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン
インターン実習の達成目標

1. 企画したイベントを準備する日々の中に、CARE の活動の理解を深める。
2. 企画したイベントを実施する事で、CATR の認知と会員の増員につなげる。

◆**インターン活動(仕事)内容**◆

CARE の活動の認知を広めシニア層の会員を増やすことにつながる新規企画を考え実施するというのが、CARE からの課題でした。天候に左右されない屋内でのイベント、スタイルも気楽に参加できるオープンカフェ形式で。テーマは、それとなく CARE の活動に結びつき、認知につながる内容をと考え、CARE の日本への支援が行われた時代、「終戦直後の日本」の状況を語れる人と語り合いができる場を作る事になりました。ネーミングも「CARE 語り部 Café」。当時の状況を語れる人を呼んでというのは、年齢を考えるとなかなか難しいので、当時を報じた映像を見て語り合うというもう一つのシナリオも用意する事にしました。広報は、シニア層が対象という事を考慮して、Web 以外にチラシ配布、DM 郵送の紙情報も加えました。イベント期日の1月21日(土)までにチラシ制作、人探し、映像検索と同時進行で進め当日を迎えました。事前参加申込みは、10名でチラシを見ての応募は皆無。当日は、冷たい雨の降る悪天候でしたが、欠席者はあつたものの当日参加(NPO シニアチャレンジスクールの方々)が、ありまらずの入り。何よりもシニア層とヤングが混じる構成になり、最後まで話題が途切れなかったのは、幸いでした。



ミーティング(イベントリハーサル)



会場設営風景



イベント当日会場風景

今後について

◆**NPO でのインターンシップを終えて、達成目標に対する自己評価、その他 感想**◆

目標1については、CARE の活動そのものの理解は、70%くらい達成できたと思いますが、オフィス内のそれぞれのスタッフの仕事内容は、よくつかめないままです。2については、ほとんど達成できなかったと思います。しかし、「CARE 《語り部》CAFÉ」の名前とイベントは、今後も残して継続されそうです。

◆**今後において、NPO や社会との関わり方についての具体的なイメージ**◆

ケアのチラシ等については、これからもお手伝いさせていただくつもりですが、ほかの団体も経験してみたいと思っています。また、自分の得意分野が収入に結び付き、余裕をもって NPO 等にかかわれないかと考えています。

インターンコーディネーターからのメッセージ

ケア・インターナショナル ジャパン 仲上睦美

いつも笑顔で対応してくださって、ありがとうございます！こちらから依頼したことに対して、いつも迅速に、丁寧に対応してくださったことに心から感謝しています。また無茶ぶりをお願いしたイベントのチラシ作成等も快く引き受けてくださって、本当に助かりました。面接の際、ご自身の知識やスキルを生かして、非営利団体などを支援したいとおっしゃっていたと記憶していますが、高橋さんならすぐにでもオファーが来るのではないかなと思います。今後も何かあれば CARE をお手伝いしたいとおっしゃってくれて、本当にありがとうございます。是非、よろしくお願い致します！



名前：鵜田紀恵子

Facebook : kieko.bonsoir

< CARE Cafe > イベント企画

これまでの経緯

ウインドウディスプレイ、や空間デザインなどの仕事を13年間、フリーランスで行った後、ベルギーに留学。その後パリに滞在、約12年間ヨーロッパ生活をする。

研修参加の動機

NPO活動の運営はどのようなものか知りたいと考えて、いずれNPOを立ち上げたいと考えている。

自分とNPOとの関わりに対する当初の期待 / イメージ

当初はNPOの活動は慈善事業のようなものと考えていたが、実際は企業的な発想で運営していることが理解できた。

研修の感想

◆NPO活動・団体のカリキュラムの理解度◆

ケア・インターナショナルでの研修は、イベント企画を研修生自身の提案で行ったので、団体の活動を知ることができなかった。また、NPO経営者との接触はほとんどなかった。大きな組織なので、世界を活動範囲に貧困、災害、紛争時の援助をしていることはわかった。

◆ソーシャルメディア研修、活用した感想◆

Facebook, twitter 等の新しいスキル出現によって、社会のシステムや人のつながり方まで変化するものと感じた。イベントの告知に使って見て、若い人に反応がはやい。人のつながり方が簡単にできて、軽いつながり方である。若い人たちは現実ともう一つの現実として分けているようだ。又、情報がネットで簡単に知ることができるのがいいと思う。

NPO インターンシップについて

◆インターン概要◆ 団体名：ケア・インターナショナルジャパン

インターン実習の達成目標：シニア層にケアインターナショナルの認知度を広めること。

◆インターン活動(仕事)内容◆

シニア層にケア・インターナショナルの認知度を高めるには、どのようなイベントをしたらいいかということから話し合い始め、イベントの企画をした。

- 各自が企画を持ちより発表
- 内容を検討、案を決定
- 各自の得意分野で作業を振り分ける
- イベント当日の作業スケジュールの決定
- 当日までの週2日は間、事務所で作業の確認。進行具合の確認作業はサイボウズLiveを使いやりとり。
- イベント広報、告知はfacebook, twitter, チラシ、ケア・インターナショナルジャパンのHP
- チラシ配り 目白図書館、地域文化センター、公民館、小伝馬町の協働中央センター
- 当日、会場作り、飲み物準備
- アンケート集計作業
- ケア・インターナショナルジャパンへの報告書作成

今後について

◆NPOでのインターンシップを終えて、達成目標に対する自己評価、その他 感想◆

ケア・インターナショナルインターナルの活動の原点は1946年、戦後直後食糧難の時、学校児童の給食など援助したのが始まりである。その時代にスポットあてて今回のイベント企画したことと、東北の震災が戦後最大の災難であったため、あの当時の日本人の思いと、どのように復興してきたのか、たどってみた。

イベント参加者は10名、うち、まったくの知り合い以外は2名であった。2カ月時間を使ったわりに結果は良くなかった。集客マーケティングに時間をかけなかったためと思う。自己満足で終わったように思う。個人的には、当時の資料をNHKアーカイブスのドキュメンタリー映像から参考にしたが、当時の人たちの証言は重みがあり、目の覚める思いがした。

もう一方で、この研修を通じて、またきっかけにして、いろいろなNPOの集まりに参加したので、若い世代の時代の動きを体験できたことが収穫であった。

◆今後において、NPOや社会との関わり方についての具体的なイメージ◆

今後は実際にNPOのスタッフとして実際に活動していきたい。

将来NPOを立ち上げたいと考えている。

インターンコーディネーターからのメッセージ

ケア・インターナショナル ジャパン 仲上睦美

フットワークが軽く、チラシ配りなども他インターンの方と協力して精力的に実行していただきまして、ありがとうございました！鶴田さんから『大丈夫よ！』と言われると、何故か本当に大丈夫な気がしてきってしまうので不思議です。図書館やビデオアーカイブなどともビデオ貸し出しの交渉をしていただいたようで、ありがとうございました。鶴田さんのフットワークの軽さや明るさがあれば、なんでも可能にしていきそうなきがしています。今後ともよろしくお願ひ致します！



名前：野原 峰夫

Twitter アカウント：@minenohara1

Facebook：noharamineo

ホームページ

初めての H P 作りと PC 講習の講師を体験

これまでの経緯

- パソコンソフトハウスでプログラマーを3年
- 大手システムインテグレータ(企業の情報システム構築の請負業者)で開発&営業など24年
- 昨年3月末退職後に、パソコンインストラクターとなるべく活動中

研修参加の動機

- 地元(江東区、江戸川区)で活動し共鳴できるNPOを知り、一緒に活動する。
- 利益追求ではなく、社会への貢献を第一義として活動する組織を何らかの形で支援したい。
- シニア世代で同様な意識を抱いている人たちと知り合いになる。

自分とNPOとの関わりに対する当初の期待 / イメージ

- たとえ十分に稼ぐことができなくても、共感できやりのあるNPOとその中でのポジションを見つけ、ライフワークとできれば理想。

研修の感想

◆NPO 活動・団体のカリキュラムの理解度◆

- 実に多くのNPOが様々な分野で着実に活動し成果を上げていることに驚嘆
- 20代、30代の若いNPO職員達のプレゼン能力、企画力、人間力に感心
- 研修後、日々のマスコミ報道や、地域でのミニコミ情報で取り上げられるNPO情報が身近に感じられるようになった。
- 様々な社会問題への意識が高まった。

◆ソーシャルメディア研修、活用した感想◆

- Facebook、twitterについては以前から興味があったが、実習を通じて今後の公私の活動の幅を広げる可能性を感じることができた。
- 市川さんの「ソーシャルビジネス最前線」は、ソーシャルメディアの使い方だけに感心が向かいがちだった中で、ソーシャルメディアを社会的な視点で理解することができた。
- NPOSCの別の講習会で知ったサイボウズLiveは、友人や家族間の情報共有ツールとして有効活用しているが、今後はNPOの内部運営のツールとしても提案していきたい。



NPO インターンシップについて

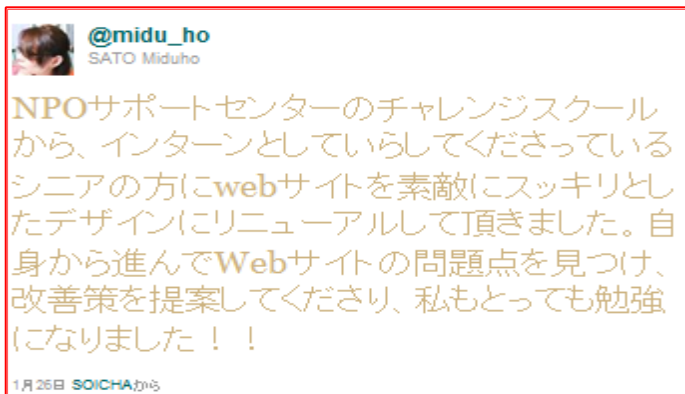
◆インターン概要◆ 団体名：自立支援センターむく

インターン実習の達成目標

1. 自身のPCスキルを活かせる活動であれば何でも
2. 活動が役立っているという実感を得る

◆インターン活動(仕事)内容◆

1. ホームページの作成・メンテナンス
2. 障害者向けパソコン講習会の講師、アシスタント



ホームページ完成後のスタッフさんのコメント



作成したホームページ

<http://www10.plala.or.jp/mukupcshop/index.html>

今後について

◆NPOでのインターンシップを終えて、達成目標に対する自己評価、その他 感想◆

- ホームページ作りは初めての経験であったが、評価されるものを自力で作成できたことに満足
- 今後、PC講習会の講師としての実績を積み重ねたい。

◆今後において、NPOや社会との関わり方についての具体的なイメージ◆

社会的な存在感を増し、“社会を変える”勢力となった多くのNPOで、シニアがさまざまな役割を持って生き活きと活動し、自分もその一員であることを実感している、というイメージ。

インターンコーディネーターからのメッセージ

自立支援センターむく 理事長 木村利信

野原さんは、物静かで穏やかな雰囲気を持っているので 障害のある利用者さんが大変落ち着いて過ごすことができました。職員にも大変評判がよく、特にPC工房のショップのホームページを新規に更新してくれた作業には感謝しています。今後もパソコン関係の仕事でお手伝いいただければ法人としても助かりますので、よろしくお願いいたします。



名前：福島 瑞郎

Twitter アカウント：@fu_sang

Facebook：mitsuo.fukushima

病気と向かい合う意味…。

これまでの経緯

大学卒業後、広告代理店に入社して何故か配属はクリエイティブ。訳も解らず遮二無二 CF の企画制作を続けました。元から無い神経をすり減らし十二指腸潰瘍を患い40歳でリタイア。転地療法を口実に東京も逃げるようにリタイアして、神戸で広告会社を作り生業にしておりました。2005年に自ら引退し帰京。それからは新入社員の時から歴代上司に教え込まれた「世のため人のためになる仕事以外はするな！」を念仏のように心の隅で唱えつつ、あれこれ模索して参りました。この気持が突出したきっかけは、現地での「阪神淡路大震災」の被災経験です。

研修参加の動機

ここ3年余り、「広汎性発達障害児」の問題について勉強をして参りました。医療や教育の専門家でも当事者/家族でもない私が、発達障害児の療育支援 NPO を目指しておりますが、当初はウェルカムだった既存団体の方々から徐々に扉を閉ざされてくるような閉塞感を感じていました。その状態を何とか打破しようと思ひまして！

自分と NPO との関わりに対する当初の期待 / イメージ

広汎性発達障害児の問題にかかわった当初から療育施設の立ち上げを目指しておりました。しかし、前項「研修参加の動機」でも述べましたように、目指している段階で早くも大きな壁にぶち当たって居りました。その事があって、現在は順調に運営されているNPOでも、最初から順風満帆ではなかったかもしれない。そんな話を聞かせて頂けるかもしれない。それをどう打開していったかを知る事が出来るかもしれない。という期待がありました。

研修の感想

◆NPO 活動・団体のカリキュラムの理解度◆

非営利活動組織の概論・意義・運営・資金調達等については、これまでも興味があり講座や本に触れていたので概ね理解できました。NPO 団体からのレクチャーでは、ICYE JAPAN の宇梶さんの情熱には圧倒されました。ファミリーハウスの植田さんの確固たるミッションには感動し、研修先の第一希望にさせて頂きました。他の方々からも情熱スコールを浴びて「当初の期待」は充分満たされました。

◆ソーシャルメディア研修、活用した感想◆

ソーシャルカンパニーの市川さんの講座では、パソコンのマジシャンになった気分を味わいました。何もかもサクサク出来てしまい、初めて「PC とは何と便利なモノ！」と実感できた瞬間です。いっばしの IT オジサンになった気分で意気揚々帰途のつき、部屋で PC を開けた途端にもう指が動きません。市川さん、ごめんなさい！ 一瞬にして「PC は世界中で一番不便なモノ」に逆戻りしてしまいました。

NPO インターンシップについて

◆インターン概要◆ 団体名：認定特定非営利活動法人ファミリーハウス

インターン実習の達成目標：インターン研修初日に自分自身の意識の脆弱さに我ながら愕然としました。

この2ヶ月で自分の意識を改革して再構築しようと目標を定めました。

◆インターン活動(仕事)内容◆

ルーティーンワークとしては、ハウス・クリーニング&キーピングです。しかし、研修中に偶然の機会が出来た「ドナルド・マクドナルド・ハウス東大」見学。2年振りに開催されたという「ファミリーハウス・ボランティア交流会」出席。そして滞在施設「おさかなの家」のリニューアル・オープン現場で活動し参加した等、数々の幸運に恵まれました。



ボランティア交流会



事務所で準備



ドナルド・マクドナルド君と

今後について

◆NPOでのインターンシップを終えて、達成目標に対する自己評価、その他 感想◆

●植田事務局長から初日に提示された課題に関連して、この間「ホスピタリティ」について、30年振りに真剣に考えました。●今やっている事を「楽しむ」を再確認しました。●「ドナルド・マクドナルド・ハウス東大」で、東大病院構内という医療現場の直近に立地しているせいか、ハッと「病気(障害)と向かい合う意味を理解する」というとても大きく大きな課題に気づきました。以後じっくり解明します。

◆今後において、NPOや社会との関わり方についての具体的なイメージ◆

最初は発達障害児の療育を、児童精神科医療の問題と捉えていましたが、現在は特別支援教育分野の問題ではないかと捉えています。専門家ではない私が、素人が故に発想できる事も沢山あります。医師・心理士・療法士・教育者と連携しながら、2E(Twice-Exceptional)教育を見据え、従来の福祉とは異なるポジティブに将来像を見つめることが出来るようなユニークで明るい療育施設を目指します。

この場を提供して下さった文部科学省とNPOサポートセンターのご担当の方々を始め、関係された多くの皆様、一緒に研修を受けた皆さんに、心から感謝を申し上げます。有難うございました。

インターンコーディネーターからのメッセージ

認定NPO法人ファミリーハウス ハウスマネージャ 松谷真精

最初にファミリーハウスのスタッフがホスピタル・ホスピタリティ・ハウスの理念を全員が共有していることについて福島氏は強く感銘したと聞きました。インターンとしての活動はハウスを理解してもらうためにペアレンツハウスの日勤・夜勤のシフトに参加してもらいました。滞在者の部屋掃除を主としたハウスマネージャの補助作業は、現役の時には考えてもいなかったことの連続だったと思いますが、明るく率直な態度で活動に参加され、私たちが学ぶところも大でした。短い研修期間ではありましたが、福島氏の目指している目標が一日も早く実ることを期待しております。



名前：普門正一

Twitter アカウント：@fumon2011

Facebook：masakazufumon

スマートシニアの研修を終えて

これまでの経緯

入社以来38年間つとめた製造メーカーの営業部門を60才にて定年退職。

65歳までの4年間は常勤で起業希望者への相談サポート業務。

61歳から住み慣れた地元の自治会等の活動やまちづくり活動。

研修参加の動機

サラリーマン時代も開発、新規開拓営業等も多かったので、起業やNPO等に興味が有りました。

私はIT能力があまり無いので、今回のセミナーにてSNSの利用方法等を教えてもらえる様なので応募しました。

自分とNPOとの関わりに対する当初の期待 / イメージ

地域コミュニティ活動等をやる場合にNPO設立や起業も考えていましたので、実際のNPOの組織運営や情報発信業務を体験し役立てたい。

研修の感想

◆NPO 活動・団体のカリキュラムの理解度◆

1. 研修でのNPOの資料は新規事業や起業等の相談サポート業務をしていた私には違和感なく知識の整理になりました。
2. NPOの経営層の方のお話はNPOのミッションの重さ、組織運営等の話が聞けて良かったのですが、設立の浅いNPOの話や経営面の詳しい話を聞きたかった。

◆ソーシャルメディア研修、活用した感想◆

1. 私にとって、SNSの研修で研修時間中は何とか操作できるのですが、帰宅してゼロからやり直すと出来ない事が多かったので、事前学習資料を渡していただくか又は終了後のレジメ配布が助かります。
2. 私はSNSの研修時間がもっと欲しかった。
3. FBとTwitterとHPとブログのミックス使用での利用の仕方がいまいち実感出来てません。サンプルで実際にMIXの関係をシュミレーションしてみたかった。
4. あまり活用が出来てませんが、まずは「まちづくり」の仲間のメーリングリストの代用にFBをグループ設定で使ってみたいと思っています。

NPO インターンシップについて

◆インターン概要◆ 団体名：WE 21 ジャパン（横浜）

インターン実習の達成目標

1. 広報部門の仕事のお手伝い。(WEショップ55店舗のG-P l a c e へのデータアップ)
2. NPO組織運営、活動の実態把握。

◆インターン活動(仕事)内容◆

私の都合で週2回、11時間程度しか時間がとれませんでした。事務所でPC作業を中心にショップ見学、倉庫作業体験、外部施設での会員研修参加、月次広報会議出席など色々経験しました。PC能力が低くあまりお役にたてませんが、多忙な広報担当者のお邪魔にならずにお手伝いが少しでも出来ればと思ってます。



事務所(横浜)でのPC作業



外部施設での月例広報会議

今後について

◆NPOでのインターンシップを終えて、達成目標に対する自己評価、その他感想◆

1. インターンシップでの目標が期間内で未達成です。期間延長して完成したいと思います。
2. 組織運営の実態把握も2カ月程度では出来ませんのでもう少し通うつもりです。インターン先選定時に私が想定していた組織運営や外部へのPRの課題との差はあまり無いと感じています。
3. 機会があり、承諾していただけるなら地域NPOの運営も知りたい。
4. あまりお役に立ててないにもかかわらず色々インターンに配慮いただき大変感謝しています。

◆今後において、NPOや社会との関わり方についての具体的なイメージ◆

私は地元の自治会や住区の活動をしておりますが、今後の少子高齢化の社会状況での地域活動を考えて日頃のコミュニティの活性化、ネットワーク化にSNSの利用やNPO活動の体験を活かしたいと思います

インターンコーディネーターからのメッセージ

特定非営利活動法人 WE21 ジャパン 広報情報室 森田夕紀

2ヶ月間お疲れ様でした。あっという間でしたね。google プレイスへのWEショップ登録に加えて、地域NPOへのブログ講座やファシリテーター養成講座、ニュース発送など、いろいろな場面でお力をお借りしました。普門さんが関心を持たれている地域づくり、街づくりについて、何かヒントになりそうなものはありましたでしょうか？4月からはFACEBOOKやTwitterも本格的にはじまりますが、これからも一緒に活動を進めていけると嬉しいです。ありがとうございました！！☆



名前：村上 介敏

Twitter アカウント：@yukitomura

Facebook：Yukitoshi Murakami

国際支援組織でのイベント企画

これまでの経緯

現代美術の制作で10年以上ドイツに滞在し、日本帰国後は20年近く建築、デザインなどの教育現場で若い人とデザインを通じた社会への問題提起に関わり、昨年ひと区切りしたところです

研修参加の動機

昨年金沢から神奈川に戻った時に、自分の専門分野の仕事以外にこれからまたワクワクするような人生をいかに送るか考えていた所に、偶然今回の研修の事を知り迷わず申し込んだ次第です。昨年「つながり」や「絆」などの言葉が異常に氾濫していて正直うんざりしていたにも関わらず、その方向に自分が動いている事が不思議です。

自分とNPOとの関わりに対する当初の期待 / イメージ

NPO、NGOの活動や社会貢献は以前から知っていて、とてもポジティブな受け止め方をしていました。2年前に世界的な社会起業家の存在と、寄付などに頼らない社会貢献活動が存在する事を知り感銘を受けていました。NPOと社会起業家との間にどのような接点、関係が存在するのかを知りたいという思いを持ちながら研修に参加したのが当初のNPOに対するイメージです。

研修の感想

◆NPO 活動・団体のカリキュラムの理解度◆

はじめにNPOについての総論的な説明を受け、現在のように多くの団体の出来上がる状況や社会の変化を理解した後、各論的に様々なNPOの団体の代表から生の声を聞いた事は、1、2回目の講義に現実的で具体的なイメージが焼き付き、そのおかげで現場実習にスムーズに入れたと思います。またソーシャルメディアの講義においてもNPOなどの社会貢献活動の話が常に絡んでいたのも、大変効果的なカリキュラム構成であり、NPOの活動を包括的に理解できた事に感謝しています。

◆ソーシャルメディア研修、活用した感想◆

イベント開催の告知はチラシを公共施設や店舗に置くと同時にホームページ、フェイスブックやツイッターなどで行いましたが、結果的にチラシで参加した方はなく、口コミと同等なソーシャルメディアの効果は大きいのではないかと思います。<以下私自身の発信例>

#care café H24年1月21日(土) 14時~17時、CARE《語り部》Caféオープン！戦後復興体験をともに経験する、お茶のひととき。ケアメンバーの活動記録も展示。リツイートよろしく！場所/ケア・インターナショナルジャパン事務所 <http://t.co/B28q9Qnt>[http://](http://t.co/B28q9Qnt) いいね！ . . .
@yukitomura on Twitter · 1月18日 21:11 (Twitterより)

NPO インターンシップについて

◆インターン概要◆ 団体名：ケア・インターナショナルジャパン

インターン実習の達成目標

1. イベント企画内容、スムーズな準備そしてイベント時当日の成果
2. インターン受け入れ先への貢献度と組織の理解
3. ソーシャルメディアの積極的活用

◆インターン活動(仕事)内容◆

インターン先からの明確なリクエストに基づき、新規支援者の獲得を目的とした対面形式のイベントを開催するという流れに沿って準備を進めました。イベントの内容は、3人のインターンの希望をミックスする形で「カフェ+語り部+団体の活動のパネル展示」となり、日本の戦争からの復興体験に焦点をあて、その当時の映像や話を交えて語り合う集まりとしました。チラシやDM、フェイスブックなどによる広報活動を通して参加を募りました。私の担当は展示用のパネルをケア・インターナショナルジャパンのホームページから日本、ドイツ、アメリカのケアの活動を写真で取り出し、それを紹介する13枚のパネルを作成することでした。これらの作業を通して我々自身もケアの活動を細かく理解する事が出来ました。



今後について

◆NPOでのインターンシップを終えて、達成目標に対する自己評価、その他 感想◆

多くの助言をケア・インターナショナルから得て無事に企画を実行できましたが、3人のインターンの役割分担はそれまでの各自の経験に基づきスムーズに行きましたが、意見の集成には異なる人生を歩んでいる事もあり時間が多少かかる事もありました。ケアの方に日頃の活動に基づく良いアドバイスをいただいたので、まとめる事が出来たと思います。ターゲットの設定などは予定通りの結果は得られず、支援を募るイベントの難しさや業務の多岐にわたる事が経験でき、たいへん良かったと思います。

◆今後において、NPOや社会との関わり方についての具体的なイメージ◆

今後もNPOへの興味や意識を高めるために、短期間でも良いのでフルタイムに関わりより大きな責任を背負ってみたいと勝手な事を考えています。フェイスブック等の研修のおかげで自分の持つネットワークを再認識でき、その上でこれからの社会との関わり方を模索したいと思っています。

インターンコーディネーターからのメッセージ

ケア・インターナショナル ジャパン 仲上睦美

イベント当日の司会、とても良かったです！ありがとうございました。学校案内等でお話をしていた実績がよくわかりました。イベント当日、シニアの方だけでなく若い方も積極的に発言して下さったのは、村上さんがうまく話をもっていってくださったからだと思います。また、村上さんが作成して下さったイベント当日に飾るパネルは、CARE事務局長をはじめ他職員にも大変好評でした。今後もイベントなどで使用したいと考えています。あのパネル（13枚！）を作成するにはとても大変だったのではないかと思います。本当にありがとうございました。また、イラストレーターのレクチャーやアプリのバナーデザイン等も引き受けてくださいましたことに、心から感謝しています。今後ともどうぞよろしくお願い致します！



名前：森下かおる

Twitter アカウント：@kaoru_shin

Facebook：kaoru0602mori

NPO に少し近づいて

これまでの経緯

桑沢デザイン研究所を卒業後、グラフィックデザイン事務所・広告代理店などで企画・開発・デザイン業務を担当。その後、東京都の職業訓練校にて、非常勤講師として初心者のための PC 入力から文章ソフトを使った簡単なデザインまでを担当。

- ・2010 年江東区協働事業に参加。
- ・2011 年中央区にて外国人のための日本語教師をボランティアで参加。

研修参加の動機

人が喜んでもらい、その事が自分の喜びにもなるような仕事を得たいと思っていました。しかし、その知識も、また、どのようにすればよいのかもわからなかった時、本研修の募集を知り、今後のため、その手掛かりになればと思い参加しました。

自分と NPO との関わりに対する当初の期待 / イメージ

小さな力でも、人とつながる事によって大きな力を得、無理だと思っている社会を変えていけることがあること。行政では届かない、気づかない事に関われるのではないかと期待。

研修の感想

◆NPO 活動・団体のカリキュラムの理解度◆

理想と現実の狭間の中で、そのギャップを埋めようと奮闘されている様子や熱い想いに感動しました。また、その差を埋めるべき情報や知識、協力の大切さを実感しました。

◆ソーシャルメディア研修、活用した感想◆

昨今“ソーシャルメディア“という言葉をよく耳にするようになりました。本当に少しだけですが、教えていただく機会を得て良かったです。もう少し使いこなせるようになり、日々の生活の中に取り入れたいと感じています。



NPO インターンシップについて

◆インターン概要◆ 団体名：共存の森ネットワーク

◆インターン活動(仕事)内容◆

1. エコプロダクツ展のブースディスプレイ

インターンが始まった時、『共存の森ネットワーク』では、2011年12月15日より東京ビッグサイトで始まる“エコプロダクツ展”出展の準備に追われていました。同団体の活動を知る意味も込めて、そのディスプレイを関わらせていただくことになりました。

“こんな感じはいかがですか？”と提案すると、“いいですねー。好きなようにやってください”と言われ、良い気になって、言いたいこと言いながら携わらせていただき楽しかったです。



【打ち合わせ風景】



【エコプロダクツ展のディスプレイ展示】



2. 聞き書き甲子園の作品校正

森の名人（森に関わる仕事されている名人）を取材した高校生の文章を校正する業務。名人の語らいに興味を持っていたので、読ませていただき興味深かった。そんな仕事があることすら知らなかった仕事の状況と、進める上でのご苦勞、変わりゆく社会の中での戸惑いなど大変勉強になった。

名人が話した言葉に忠実に表現するので、方言など間違いなのか、正しいのか迷うことも多々あり、その点も面白かった。

今後について

◆NPOでのインターンシップを終えて、達成目標に対する自己評価、その他 感想◆

『聞き書き…』は、1年を通して出来上がるようなので、その一部分を関わらせていただいたので、達成感という意味では途中です。しかし、どんな風に活動しているかを知りたかったので、その意味では満足しています。多くの方が、ほかに仕事などを持っているにも関わらず NPO 活動に参加されているのは、本当に偉いなあと実感しました。

◆今後において、NPO や社会との関わり方についての具体的なイメージ◆

人とのかかわりの大切さを言われるようになった今日、NPO 活動はますます重要になってくると思います。社会への認識、知名度アップをはかる必要が重要ではないかと感じます。

インターンコーディネーターからのメッセージ

共存の森ネットワーク 森山紗也子

森下さんのおかげで、今年のエコプロのブースはとても魅力的な展示を行うことができました。準備の段階から、様々なアイデアを次々と提案頂けて、事務局職員も刺激を受けながら、とても楽しく準備をしていくことができました。ありがとうございます。

日常の中で、NPO と接点を持つことはなかなか難しいかもしれませんが、今回のように森下さんの力を必要としている団体もたくさんあると思います。ぜひ今後も、当団体を含めた様々なNPO と関わって頂ければと思います。



名前：柳 沼 恵 一

Twitter アカウント：@KEIYAGKEIYAG

Facebook：KEIYAGKEIYAG

地域における市民活動・NPO 活動

これまでの経緯

製薬企業で新薬開発、米国子会社でライセンス業務を経験し、帰国後公益団体に移り、知的財産技術移転活動や国際関係機関との連携業務に携わった。定年退職後は、「自分に厳格、家族に優しく、地域の生活を第一に」をモットーにして、障がい者の社会教育・社会参加の支援、まちづくり市民検討会、郷土史研究会、公民館の市民自主講座企画などの地域活動を楽しんでいる。

研修参加の動機

自分のスキルや経験をもっと活かせるような社会的活動や地域活動を考えるようになり、自主性、非営利性、公益性を維持しながら事業を持続させるための組織(NPO)の仕組みや運営にも関心を持つようになった。本研修のカリキュラムには、現場実習が組み込まれており、自分のニーズに的確に対応していると判断した。

自分とNPOとの関わりに対する当初の期待 / イメージ

医療、介護、福祉、教育の分野における地域活動を始めるために必要な知識とスキルの習得を期待した。

研修の感想

◆NPO 活動・団体のカリキュラムの理解度◆

「日本のNPO法人が43,000団体、1ヶ月に約200団体が誕生」する基盤は、ネットワーキング（市民セクターの力を集める）、パートナーシップ（市民、行政、企業の力を集める）、プラットフォーム（基盤、舞台を作る）の形成による社会的課題に対する解決力にあるということ等を理解した。

◆ソーシャルメディア研修、活用した感想◆

ソーシャルメディアについては、全く予備知識がないままに受講した。TwitterやFacebookを初めて使ってみて、その威力の大きさに正直驚いた。このスキルの習得は、市民活動・NPO活動を進める上で有力なツールになるのは間違いないと確信した。スピード感が優れている反面、信頼性の確保にも留意する必要があることも認識した。

（右は、仮設のFacebookページ）



NPO インターンシップについて

◆インターン概要◆ 団体名：藤沢市市民活動推進センター

インターン実習の達成目標

1. 地方自治体における市民活動支援施設の管理・運営について理解する。
2. 実習先のニーズに合ったソーシャルメディアの活用法を検討・実行する。

◆インターン活動(仕事)内容◆

全 15 回の研修プログラム。前半は、センター内日常業務全般についての作業の習得。毎回、30 分間、館内チェックリストに沿って、フロアー、設備、郵便物、掲示板等を点検。それに引き続き、段階を踏みながら、情報の一次処理、二次処理、コンピュータ入力等の情報収集・分析・発信作業を実施。後半は、各種作業を処理した後に、Facebook ページ立ち上げに向けて、コーディネーターを交えて、他のインターンとの協働作業を実施。



藤沢市市民活動センターの館内



Facebook ページ立ち上げ検討会議

今後について

◆NPO でのインターンシップを終えて、達成目標に対する自己評価、その他 感想◆

第一の目標は、現場の実習を通じて、中間支援施設としての管理・運営を徹底的に学ぶことができた。また、センター長との面談により、設立の経緯、行政との関係、資金運営等についても理解を深めることができ、開館 10 周年記念イベントや地域 NPO 交流サロンへの参加も貴重な経験であった。第二の目標は、Facebook ページ作成の入口までの成果となったが、公開も含めこれからもサポートしたい。

◆今後において、NPO や社会との関わり方についての具体的なイメージ◆

地元で NPO などのテーマコミュニティと町内会・社協などの地域コミュニティの連携を推進するにして、仲間を集め、対話の機会を増やしていきたい。

インターンコーディネーターからのメッセージ

藤沢市市民活動推進連絡会 桜井 光

まずは研修期間を無事終えられたこと、お喜び申し上げます。「センターの情報の流れを理解してもらう事」、そこに重点をおいて臨みました。オリエンテーションで意識合わせを行いました。(インターンとボランティアの違いから始まったのは忘れられません) 郵便物の受取処理や、チラシの配架処理、毎月の発送物の折り込みなど、アナログな作業も多い中、ひとつひとつ何かを吸収しようとする姿勢で臨んでいただき、快く作業を頼むことができました。後半は、Facebook ページの立ち上げをお願いし、熱心に作業に取り組んでおられました。今後地元での活動をされるとのこと、今回の経験がお役にたてば嬉しく思います。これからのご活躍お祈りしています。



名前：吉田伸廣

Twitter アカウント：@nickyoshida1

Facebook：nickyoshida1

スマートシニアの NPO 活動への挑戦

これまでの経緯

私は情報処理機器製造業にて 34 年間一貫して勤務し、情報処理機器のハード及びソフト設計に 24 年間、ISO 品質マネージメント及びお客様相談センター管理業務に 10 年間携わってきました。

研修参加の動機

2010 年 12 月に会社をリタイアし、その後キャリアコンサルティングを受けながら自分の第 2 の人生をどのように生きるかを考えていました。NPO/ボランティア活動への興味があったため、いくつかの団体の説明会などに参加しましたが、具体的に自ら活動に参加するまでには至りませんでした。そんな時に今回のスマートシニアチャレンジスクールの研修に出会い、この研修で各 NPO 団体の活動内容を学び、インターン研修を経て NPO 活動参加に繋がる機会になればと思い参加しました。

自分と NPO との関わりに対する当初の期待 / イメージ

各 NPO 団体のスタッフの方々は、その団体の活動理念の基に情熱を持ち活動されていますが、活動経験の無い者にとっては温度差があり、なかなか活動に参加しづらいイメージがある。

研修の感想

◆NPO 活動・団体のカリキュラムの理解度◆

NPO 活動の歴史/社会的意義や組織運営・資金の仕組みなどに関して漠然とではあるが理解できました。また、各種 NPO 団体での具体的な組織運営・資金の仕組みに関する説明も聞くことが出来て大変に有意義でした。

◆ソーシャルメディア研修、活用した感想

NPO/ボランティア活動においては支援者獲得や寄付金の獲得などのツールとして Facebook/Twitter などのソーシャルメディアが今後ますます重要になると感じました。

スマートホン/iPad などの携帯端末の普及が増加すると、これらの端末でもアクセスできるソーシャルメディアは更に重要になると思います。



NPO インターンシップについて

◆**インターン概要**◆ 団体名:セカンドハーベストジャパン(http://www.2hj.org/index.php/jpn_home)

インターン実習の達成目標

1. セカンドハーベストジャパンの具体的なフードバンク活動を経験する。
2. 自分のスキル・経験がどのようにセカンドハーベストジャパンの活動に生かせるか見極める。

◆**インターン活動(仕事)内容**◆

11/28 日から平日はほぼ毎日インターン実習として、フードバンク活動に従事しました。

活動内容としては、食品引取・配送トラックドライバ/補助員や東日本震災東北向け食品パッケージ作業、および受領食品実績表のデータ入力/配送食品実績表のデータ入力などとなります。

活動の中で、青果物などは受取り時に傷みのひどい物の選定を行い、良い物だけを配送するなどの配慮をしており、又、配送先施設の世帯数なども考え世帯数に合わせた数量の物を配布するなど、きめ細かい配慮をしていることに興味しました。



COSTCO での食品引取り



果物/野菜類



パン/ドーナツ類

今後について

◆**NPO でのインターンシップを終えて、達成目標に対する自己評価、その他 感想**◆

フードバンク活動は物流(ロジステック)が重要であるが、食糧の引取りや配達などのドライバーも多くの年配のボランティアで支えられており、皆さんが人の役に立てる場を得られて幸せだと感じられているとのことで、感銘を受けました。

2011 年度では延べ約 5000 人のボランティアの参加により約 1500 トンの食品を提供することができたとのことであり、私自身も微力ではあるが支援を継続したいと思います。

◆**今後において、NPO や社会との関わり方についての具体的なイメージ**◆

今後、団塊の世代が一斉に定年退職することにより、退職した 60 代のシニアが大幅に増加しますが、これらシニア世代は生活に余裕がある人も多く、いろいろな経験/スキルを持ったこれらの人を取込むことが出来れば、NPO 活動の発展につながると思います。

私自身としては、セカンドハーベストジャパンにおいて週 2 回程のボランティア活動を継続したいと思います。

インターンコーディネーターからのメッセージ

セカンドハーベスト ジャパン 高原恵

Nick さん、2 ヶ月間ほぼ毎日当団体の活動に関わっていただき本当に有り難うございました。外の大変な現場作業から、事務所でのデータ入力まで、幅広い分野でお手伝いいただき、フードバンク部のスタッフは大変助かっていました。Nick さんは海外経験から英語も話されるので、当団体のインターナショナルな雰囲気にも溶け込んでいました。今後も継続的に参加して下さるとのこと、2HJ スタッフ一同大変嬉しく思います。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

「スマートシニア NPO チャレンジスクール」実施報告書

発行日
2012年3月

発行者
主催：(特活) NPO サポートセンター
理事長：山岸秀雄
〒104-0061 東京都中央区銀座 8-12-11
Tel : 03-3547-3206 URL : <http://www.npo-sc.org>